Clarion

JC300

取扱説明書

パーソナル無線機

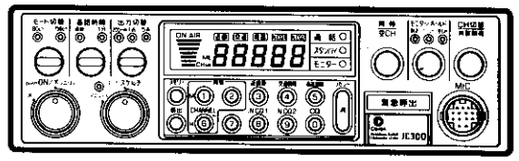
Clarion

クラリオン株式会社

本　　社　〒112　東京都文京区白山5-35-2
本社事務所　〒150　東京都渋谷区渋谷2-22-3
消費者窓口　　TEL 03(400) 1121

280-5093-01

クラリオンパーソナル無線機JC300をお買い求めいただき、誠にありがとうございました。本機の性能を十分に発揮させ、正しくご利用いただくため、ご使用の前には、この説明書をよくお読みください。お読みになったあとは大切に保管し、わからない点や不具合があったときはもう一度ご覧ください。必ずお役に立ちます。



もくじ

1 ご使用になる前に …… ❸

2 主な特長 …… ❹

3 本体及び付属品 …… ❺

4 パーソナル無線の概要 …… ❻

4-1 パーソナル無線概要
4-2 新システムと旧システム
4-3 パーソナル無線の基本状態

5 取付方法 …… ❽

5-1 取付場所
5-2 ダッシュボード下への取付方法

6 アンテナについて …… ❾

6-1 アンテナの取付位置
6-2 取付上の注意

7 接続配線方法 …… ❿

7-1 電源の接続
7-2 スピーカマイクの接続
7-3 アンテナケーブルの接続
7-4 外部スピーカの接続
7-5 接続上の注意

8 各部の名称と働き …… ⓬

8-1 操作部
8-2 表示部
8-3 動作音

9 準　備 …… ⓱

10 操作方法(初級コース) …… ⓲

10-1 群番号の設定
10-2 メモリーへの書込み
10-3 メモリー内容の読出し
10-4 スケルチ
10-5 通　話
10-6 モニター
10-7 割込みモニター

11 操作方法（中級コース） …… ㉗

11-1 80ch／158chモード切替
11-2 連続／1分通話切替
11-3 5W／1W／200mW出力切替
11-4 一般呼出(CQ)
11-5 特定通信用群番号での送信
11-6 特定通信用群番号での受信
11-7 特定通信用群番号の受信無視
11-8 再呼び(リコール)

12 操作方法（上級コース） …… ㊴

12-1 通話時間制限
12-2 切断信号
12-3 チャンネル切替の方法
12-4 チャンネル復帰の方法
12-5 チャンネルメモの方法
12-6 空チャンネルモニター

13 故障かな？と思う前に …… ㊺

14 主な仕様 …… ㊻

15 アフターサービスについて …… ㊼

16 オプション …… ㊼

15 アフターサービスについて

1. 保証書

この商品の保証書は別に添付してあります。必ず、販売店名、購入日等の記入及び記載内容をお確かめになり、大切に保存してください。

2. 保証期間

本機の保証期間は、お買い求めの日から1年間です。万一、保証期間内に故障が生じた場合は、保証書の記載内容に基づいてお買い求めの販売店または当社代理店にて、無料修理致します。

3. 保証期間経過後あるいは保証対象外について

お買い求めの販売店または当社代理店にて有料修理致しますので、ご相談ください。なお、アフターサービスについてご不明な点は、お買い求めの販売店または当社代理店にご相談ください。

当社代理店及び指定サービス店以外にて本体ケースを開封し、内部を調整したり改造を加えたりしたことにより起因したと思われる故障、あるいはパーソナル無線普及促進協議会の認定品ラベルのない不法アンテナや不法送受信ブースター等を接続したことにより起因したと思われる故障については保証対象外として取り扱います。

16 オプション

JAG-906	ガーターアンテナコーリニアタイプ
907	〃
908	〃
JAM-900	マグネットアンテナホイップタイプ
903	〃
JAT-902	トランクリッドアンテナコーリニアタイプ
903	〃
904	〃
907	〃
909	トランクリッドアンテナスリーブタイプ
JP-9100A	基地局用電源　(注意1)
EMA-032	フレキシブルマイク
033	基地局対応スタンドマイク
SPA-859	モニタースピーカ
922	薄型モニタースピーカ
923	モニタースピーカ
924	車外用モニタースピーカ
RKA-134	スピーカ切換ボックス(注意2)
CCA-077	バッテリー直結用ロングコード
CAA-076	DC／DCコンバータ

注意1. 基地局用電源JP-9100Aと組合せて使用する場合はスペーサーキット(HBT-122)が必要となります。

注意2. RKA-134は車外用モニタースピーカ(SPA-924)とその他の車内用モニタースピーカを組合せて使用する場合に使用します。

14 主な仕様

○総合	
周波数 （制御チャンネル） （通話チャンネル）	903.0125 ～ 904.9875 MHz 903.0125 MHz 903.0375 ～ 904.9875 MHz （12.5kHz STEP）
電波型式 （制御チャンネル） （通話チャンネル）	 F2D F3E
通信方法	単信方式
空中線インピーダンス	50Ω不平衡
周波数安定度 （0～＋50℃） （－10～0、＋50～60℃）	 ±2PPM ±3PPM

電源電圧 消費電流 （13.8V）	DC13.8V ㊀接地 待受 0.6A 送信 2.0A

寸法 （幅） （高さ） （奥行） 重量	178mm 50mm 145mm （突起部を含まず） 約1.1kg （本体のみ）

○送信部	
送信出力	5W／1W／200mW
最大周波数偏移	±3.5kHz以内
スプリアス発射強度	－60dB
占有周波数帯幅	13kHz以内

○受信部	
受信方法 中間周波数	ダブルスーパーヘテロダイン方式 第1中間周波数 58.1125 MHz 第2中間周波数 455kHz
受信感度	－5dBμV以下 （20dBNQ）
スプリアスレスポンス	60dB以上
相互変調特性	60dB以上
通過帯域幅	10kHz以上
低周波出力	2W／8Ω

1 ご使用になる前に

❶本機はDC12V・(－)接地車専用です。 DC24Vの車でご使用になる場合は、専用のコンバータ(CAA-076)がありますので、お求めの販売店、または当社代理店にご相談ください。

❷パーソナル無線は、電波法により分解、改造等が禁じられております。万一、不具合や故障が生じた際は、お求めの販売店、または当社代理店にご相談ください。

❸パーソナル無線機を設置する際は、ホコリや熱気、湿気が少なく、直射日光に当たらない場所を選んでください。また、セットの清掃は、乾いたやわらかい布でふいてください。シンナー、ベンジン等は変色の恐れがありますので絶対に使用しないでください。

❹パーソナル無線は資格を必要とはしませんが、無線機の登録と使用者の免許状取得が法令で定められています。この申請をしない限り、パーソナル無線を使って送信することはできません。「パーソナル無線免許申請委任の手引」を良くお読みの上、**必ず免許状を取得してご使用ください。**

❺ROMカートリッジは一度装着しますと取り外しができない構造になっています。免許申請委任を行なう時に財電気通信振興会へ送付し、**免許状とともに返送されてくるまでは絶対に本体に装着しないでください。**
ROMカートリッジを装着しなくても受信だけはできますので、ROMカートリッジが返送されてくるまでモニター（10-6参照）等でお楽しみください。

❻航空機等でご使用になる場合は、航行の安全を守るために、次の注意項目を十分確認してください。
- ●旅客機や遊覧飛行機等の中では使用しないでください。
- ●小型軽飛行機、ヘリコプター、グライダー等で使用する場合には、できる限り機体のアースと無線機のアースを接続するか、または無線機を電気的に絶縁するなど、安全性を十分確保した上でご使用ください。
- ●パーソナル無線機の設置状況によっては、航法計器または電気的設備の機能に障害を与える恐れがありますので、これらの機能に支障のないことを十分に確認した上でご使用ください。

❼無線機に接続するアンテナは技術基準適合証明を受けたアンテナを使用することが定められています。適合マークを確認の上でご使用ください。

❽ご使用にならない場合は、必ず電源を「OFF」にしてください。

2 主な特長

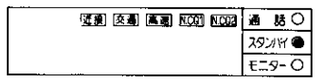
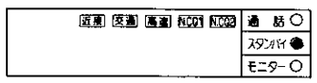
❶新システムの採用により、機能が一層充実しました。
- ●158チャンネル使用
- ●送信出力を3段階切替(200mW／1W／5W)
- ●特定通信用群番号での発着呼
- ●混信の少ない1分通話
- ●送信出力に合わせた受信感度切替
- ●交信相手もリセットできる切断信号

❷新方式スーパースケルチ
❸混信時に別のチャンネルに移るチャンネル切替機能
❹空チャンネルをモニターして5チャンネルまで登録可能
❺特定通信用群番号はワンタッチで送信可能
❻チャンネルモード、通話時間、送信出力はワンタッチで設定可能
❼わかりやすい日本語表示
❽残り時間をディスプレイ表示
❾動作を表示と音で確認
❿通話中及びモニター中にエンジンが瞬断しても前の状態に復帰
⓫長寿命のリチウム電池でメモリーをバックアップ
⓬豊富なオプション機器

13 故障かな?と思う前に

修理を依頼される前にもう一度次のことをご確認ください。それでもなお異常の場合には、お買い求めの販売店または当社代理店へご相談ください。

トラブル	チェックポイント	対策
送信できない。	ROMカートリッジが装着されていない。	(財)電気通信振興会より返送された申請書のROMカートリッジを装着してください。
	ROMカートリッジを未申請のまま装着。	当社代理店までご相談ください。
	空チャンネルが見つからない。	しばらく待ってからプレストークスイッチを押してください。
	モニター受信の状態になっている。	モニター受信では、相手との群番号が一致し、相手からの制御信号を受信すると送信に移ることができます。
	群番号が5桁まで設定されていない。	数字キーで5桁までフル設定します。4桁以下の群番号でも頭には必ずゼロをつけます。
	プレストークスイッチを押していない。	送信はプレストークスイッチを押しながら話します。プレストークスイッチを押してください。
受信できない。	ボリュームが左一杯に絞り切ってある。	ボリュームを上げてください。
	プレストークスイッチが押されている。	受信はプレストークスイッチを離します。 プレストークスイッチを離してください。
	相手の群番号と合っていない。	数字キーまたは一般呼出しキーで相手の群番号に合わせます。
	交信エリア内に相手がいない。	しばらく待ってください。
通話状態にならない。	マイクの持ち方でリセットボタンが押されたままになっている。	リセットボタンを離してください。
交信開始のとき、通話の頭が切れて途中から音声が出る。	データ音が聞こえる。	プレストークスイッチを押して送信する最初のときは、無線機が空チャンネルを探し、相手を見つけています。送信の一番はじめは(最低約2.2秒) プッ音を確認してから話します。故障ではありません。
通話の途中で音声が短時間切れる。	制御信号が出ている。	連続送信中は1分ごとに制御信号が約0.2秒自動的に発射されます。故障ではありません。
ROMカートリッジが挿入しづらい。	表裏が逆になっている。 斜めに位置ぎめしている。	ROMカートリッジの表裏を確かめ、ソケットをまっすぐ正しく挿入します。
交信距離が短い。	正しいケーブル、指定のアンテナが使われていない。	2.5D-2V、3D-2Vほか50オーム系の同軸ケーブル、指定のアンテナを使います。
受信のはじめと終わりにプッ音が入る。	制御信号の音が出ている。	受信をはじめた最初のときと受信が終わった最後のときは相手から制御信号が送られてきます。故障ではありません。

	(2) マニュアル 空チャンネルモニター		
❶	10-6 (2) のマニュアルモニターの操作方法と同様に任意のチャンネルを1チャンネルずつモニターします。		
❷	モニターしているチャンネルを空チャンネルと判断した場合には 空CH キーを押すと、現在停止しているチャンネルを記憶して、次のマニュアルモニターサーチに移ります。	ピロロ	
	モニターしているチャンネルを空チャンネルではないと判断した場合には、モニター／ホールド キーかマイクの MONITOR・S ボタンを押すと、現在停止しているチャンネルを記憶せずに、次のマニュアルモニターサーチに移ります。	ピッ	
❸	マニュアル 空チャンネルモニターを終了する場合にはマイクの RESET ボタンを押します。但し、❷のサーチ中には、リセット 消 キーを押しても、スタンバイ状態に戻ります。	ピッ	

注意
1. モニターしているチャンネルが既に使用中であれば、空CH キーを押してもチャンネルの記憶はせず、エラー処理を行ないます。
2. サーチ中の「ピピピ」という音はサーチ音です (10-6 (1) 注意1参照)。

3 本体及び付属品

JC300には、以下の付属品が同梱されています。よくお確かめください。

❶本体(JC300)……1

❷スピーカマイク……1

❸ROMカートリッジ……1

❹ROMカートリッジ装着工具 ……1

❺取付ブラケットA ……1

❻取付ブラケットB ……1

❼付属品袋A ……1

- 六角ボルト(M5×8)×1
- 六角ボルト(M5×12)×4
- タッピングスクリュー (φ5×20)×5
- プレートナット (φ5用)×5

❽付属品袋B ……1

- V 字型コード×1
- アースコード×1
- 2 P プラグ付ショートコード×1
- 束線バンド×3
- 延長コード×1

❾付属品袋C ……1

- マイクフック×1
- タッピングスクリュー (φ 3×12)×2

❿書類袋 ……1

1) 書類袋A
   - 取扱説明書
   - 保証書
   - 愛用者カード
   - サービス店リスト

2) 書類袋B
   - 委任状
   - 郵便振替払込用紙
   - 送付用封筒
   - 返送用封筒
   - パーソナル無線免許申請委任の手引

3) 書類袋C
   - 技術基準適合証明書

⓫ヒューズ袋……1

- ヒューズ (3 A)×2

4 パーソナル無線の概要

1. パーソナル無線概要

パーソナル無線は、900MHzのUHF帯を使用して、158チャンネルで無線通信を行なうものです。この中のNo.1チャンネルは「制御チャンネル」と呼ばれ、無線回線を結ぶための制御信号を送受信するために使われます。また、残りの157 チャンネルは「通話チャンネル」と呼ばれ、通話をするために使われます(図4.1参照)。

通話をするためには、任意の5桁の数字からなる群番号を設定しなければいけません。これは電話をかける時の電話番号のようなもので、各個人で、または各グループで自由に決めることができます。但し、群番号「00000」は、見知らぬ人と話してみたい時などに不特定の相手を呼出す「一般呼出(CQ)」専用群番号です(11-4参照)。

パーソナル無線では、同じ群番号で通話している複数局が、1つのチャンネルを交互に使用するプレストーク方式を採用しています。送信ではマイクのプレストークボタンを押し、受信では離し、これを繰返して通話をします。

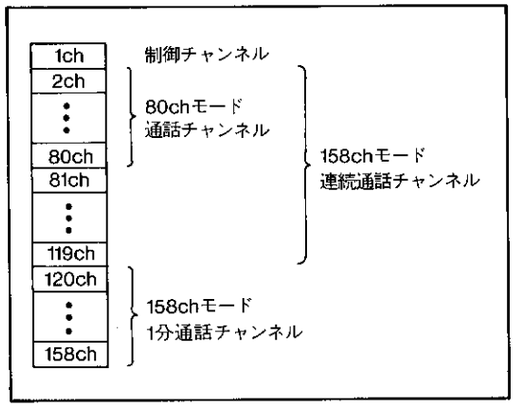


図4.1

2. 新システムと旧システム

旧システムのパーソナル無線では80チャンネルを使用して通話していましたが、その普及と共に混信軽減の欲求が増し、昭和61年1月27日以降、158 チャンネルを使用した新システムのパーソナル無線が認可されました。

新システムから旧システムを呼出す場合、158ch モード連続通話で呼出すと呼出せないことがあります。旧システムを呼出す場合には、必ず80ch モードに切替えてください(11-1参照)。

新システムでは、158ch モード連続通話で呼出しても通話チャンネル(2～119ch)が一杯の場合には、158ch モード1分通話へ自動的に切替わります。通話は1分間の時間制限を受けます(12-1参照)。

また、158ch モード1分通話で呼出しても通話チャンネル(120～158ch) が一杯の場合には、158ch モード連続通話へ自動的に切替わります。しかし、通話は1分間の時間制限を受けたままです(11-2参照)。

6. 空チャンネル モニター

空チャンネルをモニターして、5チャンネルまで記憶することができます。相手を呼出す場合には、記憶しているチャンネルを優先して空チャンネル捜しを行ないます。また空チャンネルモニターには、マニュアルとオートの2通りがあります。

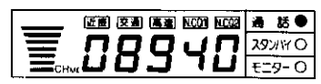
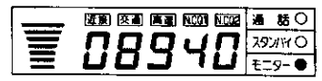
	(1) 空チャンネル モニター		
❶	スタンバイ状態を確認し、**スーパースケルチにします。** 空CH キーを押します。 (特に群番号は何でもかまいません。)	ピッ	08940 / スタンバイ●
❷	5秒以内に モニター／ホールド キーかマイクの MONITOR·S ボタンを押すと、空CH 表示を点灯して、空チャンネルモニター状態に入ります。 サーチ中は群番号を消します。	ピッ	モニター●
❸	空チャンネルを見つけると群番号を表示して停止します。		08940 / モニター●
❹	空チャンネルと判断した場合は、30秒以内に 空CH キーを押すと、現在停止しているチャンネルを記憶して、次の空チャンネルモニターサーチに移ります。	ピロロ	モニター●
	空チャンネルではないと判断した場合は、30秒以内に モニター／ホールド キーか MONITOR・S ボタンを押すと、現在停止しているチャンネルは記憶せずに、次の空チャンネルモニターサーチに移ります。	ピッ	モニター●
	30秒を過ぎると、現在停止しているチャンネルを自動的に記憶して次の空チャンネルモニターサーチに移ります。	ピロロ	モニター●
❺	空チャンネルモニターを終了する場合は、マイクの RESET ボタンを押してください。但し、❷、❹の時には リセット 消 キーを押してもスタンバイ状態に戻ります。 空CH 表示を消します。	ピッ	08940 / スタンバイ●

注意

1. サーチ中の「ピピピ」という音はサーチ音です(10-6 (1) 注意1参照)。
2. 空チャンネルの記憶は、モード切替 キーでチャンネルモードを158chモードから80chモードに切替えると消えます。
3. 1分通話チャンネルは記憶できません。

5. チャンネルメモの方法

通話中に、群番号と使用チャンネルを記憶します。現在の交信から一時離れて他の局と交信し、再び元の通話に復帰する時など便利です。

❶	通話受信状態で CHANNEL M キーを押します。これで現在の使用チャンネルと群番号を記憶します。 (例えば、「08940」で通話受信状態の場合)	ピッ	
❷	リセット 消 キーかマイクの RESET ボタンを押して通話を一時中断し、スタンバイ状態に戻ります。以後15分、CHME 表示点灯の間はチャンネルと群番号を記憶しています。	ピッ	
❸	他局との交信、または他局同志の通話をモニターできます。終了したら、RESET ボタンを押してスタンバイ状態に戻します。 (例えば、「00000」で発呼した場合)	(ピッ) (ピッ) ⋮	
❹	CHME 表示が点灯していることを確認して、CHANNEL R キーを押します。チャンネルメモに記憶されているチャンネルでモニター状態になります。	ピッ (音声信号)	
❺	モニターしている通話の群番号と待受けている群番号が一致した場合には、10-6 (1) ❹ 以降の操作をします。 (例えば、「08940」で待受けていた場合)	(音声信号) ピロロ	

注意

1. 通話を開始してから1分以内の場合は、切断信号を発信して相手もスタンバイ状態に戻してしまう場合があり、この時にはこの方法では復帰しません。
2. チャンネルメモをしても、RESET ボタンか リセット 消 キー以外でスタンバイ状態に戻った時には、CHME 表示は消え、チャンネルメモの機能も働きません。
3. チャンネルメモの記憶は CHANNEL R キーで一度呼び出すと消えます。

3. パーソナル無線の基本状態

パーソナル無線の動作は、大きく4つの状態に分けられます。この状態を良く理解して、パーソナル無線を有効的にご使用ください(図4.2参照)。

❶スタンバイ状態…電源投入時の状態で、制御チャンネルにいて他の状態に移るのを待受けています。
スタンバイ 表示を点灯させます。

❷ホールド状態…スタンバイ状態で通話要求を受けた場合に、通話チャンネルに移った後で一時停止または通過します。
通話 表示とホールド表示を点灯させます。

❸通話状態…ホールド状態を通った後の通話可能な状態です。プレストーク方式を採用しているパーソナル無線では、送信状態(TX)と受信状態(RX)があります。
通話 表示のみ点灯させます。

❹モニター状態…他局同志の通話を受信する状態で、群番号が一致すれば通話状態にも移れます。
また、空チャンネルだけを受信することもできます。
モニターには、モニター(M)、割込みモニター(IM)、空チャンネルモニター(EM)の3種類があります。
モニター 表示を点灯・点滅させます。

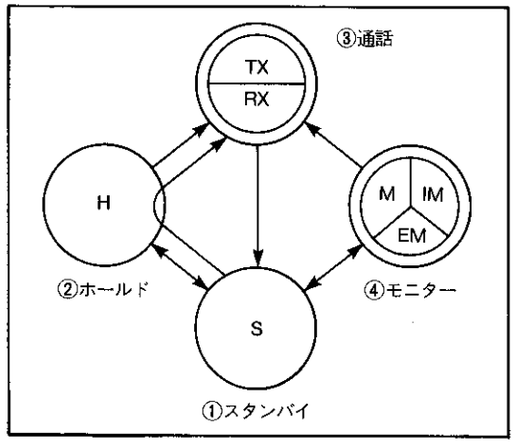


図4.2

5 取付方法

1. 取付場所

車に取り付ける場合は、本体及びマイクが運転の邪魔にならない位置を確認してください。
クーラー及びヒーター吹出し口付近などの高温多湿、または振動の多い場所、直射日光の当たる場所は避けてください。
取り付けの際は、はじめに付属品を確認してください。

❶コンソールへの埋込み

取付キットを用いて、当社コンポカーステレオと一体で取り付けられます。車への取付方法としては外観もスマートで安全性にも優れています。
車種により取付キットが異なりますので、お買上げの際、販売店にお問合わせください。

❷ダッシュボード下への取り付け

この場所への取り付けは助手席へのスペースが狭くなりますが、比較的容易に取り外しができます。

❸❹フレキシブルマイク(EMA-032)の取り付け

別売りのフレキシブルマイクを取り付けると、運転しながら安定した操作が楽しめます。

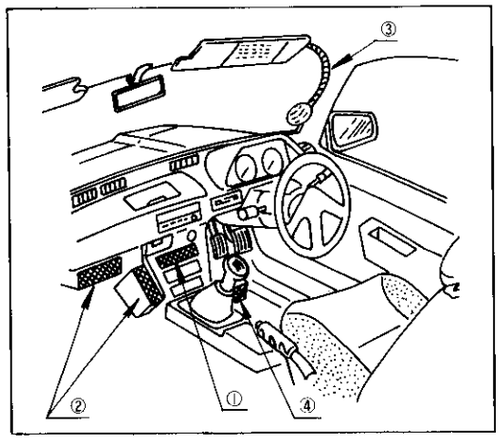


図5.1

2. ダッシュボード下への取付方法

取付ブラケットA用の穴のほかにブラケットB用の穴(直径3.5mm)を、ダッシュボード下の奥に1ヶ所開けます。
取付ブラケットBを本体後面の取付穴とボディ側に開けた穴に合うように曲げます。
取付ブラケットBは、本体側は六角ボルト(M5×8)、ボディ側はタッピングスクリュー(φ5×20)で仮止めします。
取り付けに無理がかからぬことを確認してから、ボルト・スクリューを締めます。締めすぎると破損する恐れがありますので、ご注意ください。

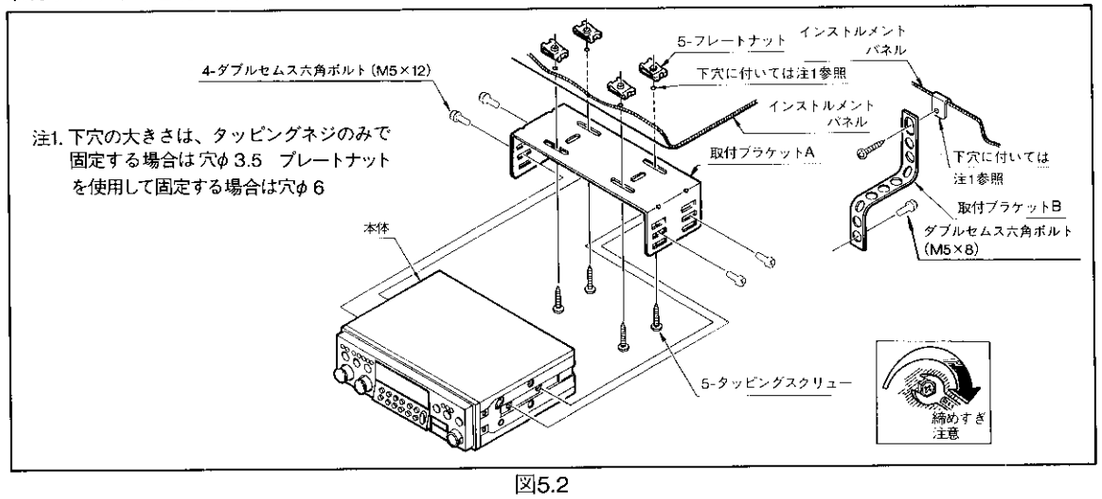
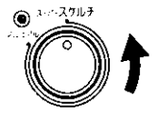


図5.2

4. チャンネル復帰の方法

通話中、誤って RESET ボタンを押したり、または時間が経過したりしてスタンバイになってしまった時でも、前のチャンネルに戻って再び通話ができます。

❶	マイクの SQ ボタンを押して マニュアル 表示を点灯させ、マニュアルスケルチにします。	ピッ	○ マニュアル スーパー → ● マニュアル マニュアル
❷	スケルチツマミを反時計方向一杯に回します。		
❸	5分以内に モニター／ホールド キーかマイクの MONITOR・S ボタンを押し、モニター状態に入ります。最後に使用したチャンネルをモニターします。	ピッ (音声信号)	
❹	モニターしている通話の群番号と待受けている群番号が一致した場合には、10-6 (1) ❹以降の操作をします。 (例えば、「08940」で待受けていた場合)	(音声信号) ピロロ	

注意

1. モニター／ホールド キーか MONITOR・S ボタンを押す前に、プレストークボタンを押したり、別の呼出しがあった場合は、この方法では復帰できません。
2. 通話を開始して1分以内の場合には、切断信号を発信して相手もスタンバイ状態に戻してしまうことがあります。この時には、この方法では復帰できません。

2. 切断信号

相手を呼出した時、通話が始まってから1分以内にマイクの RESET ボタンか リセット 消 キーを押した場合には切断信号が出ます。また、1分経過後及び呼出された時でも CH切替 キーを1.5秒以上押すと切断信号が出ます。この切断信号により、呼出された相手もスタンバイ状態に戻すことができます。

注意
1. 呼出された方は、1分以内に RESET ボタンか リセット 消 キーを押しても切断信号を発信できません。
2. 一般呼出か特定通信用群番号で呼出された時、及び各モニターから通話に入った場合には、1分経過後に CH切替 キーを1.5秒以上押しても切断信号を発信できません。
3. 相手が旧システムの場合は、切断信号を送ってもそのままの状態で前のチャンネルに残ります。
4. 相手が送信中に切断信号を送った場合には、新システムのセットでもスタンバイ状態には戻せません。

3. チャンネル切替の方法

混信などで通話の内容が聞き取りにくい場合には、別の空チャンネルを見つけて移り、再び通話を続けることができます。

❶	通話中、混信等で通話状態が悪くなった時には、CH切替 キーを押します。 （例えば、「08940」で通話中の場合）	（音声信号） ピッ	
❷	切断信号を出して相手を一度リセットした後空チャンネルを見つけて移り、そのチャンネルに相手を引込みます。ホールド 表示を点灯させ、ホールド状態であることを示します。	ピッ	
❸	まだ混信がある場合には、❶から繰り返してクリアなチャンネルを捜してください。	（ピッ） （ピッ）	
❹	ホールド状態で モニター／ホールド キーか MONITOR・S ボタンかプレストークボタンを押すと通話状態に移り、再び通話が続けられます。 キーの受付は30秒以内です。	ピッ	

注意
1. **相手が旧システムの場合は、前のチャンネルに残ったままとなり、通話は再開できません。**
2. 大ゾーン（5W／1W）の場合は、出力切替 キーを押してもホールド状態から通話状態に移ります。
3. **一般呼出しか特定通信用群番号で呼出された方は、チャンネル切替ができません。**
4. 相手が送信中にチャンネル切替をしても、通話は再開できません。

6 アンテナについて

1. アンテナの取付位置

パーソナル無線の電波は直進する性質があります。アンテナはなるべく高い位置に取り付け、見通せる範囲を広げた方が、電波の飛びが良くなります。また、アンテナは付近の影響を受け易いので周囲に金属物体等を近づけないでください。車に取り付ける際は、トランクリッドよりもルーフトップの取り付けが有利です。
基地局（固定局）として使う時は、屋根の上などが適していますが、同軸ケーブルは最短距離で引回さないと、ロスが増え、送信電力が減少します。

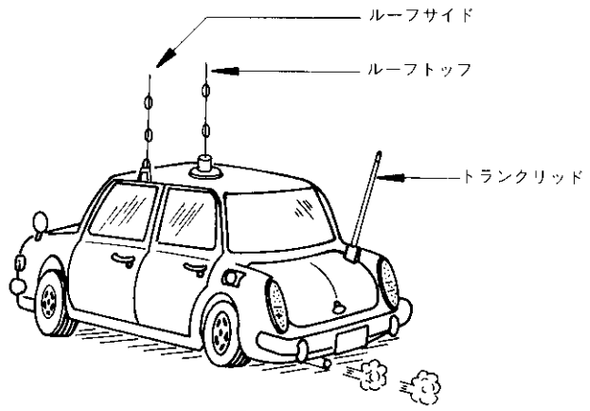


図6.1

2. 取付上の注意

1. 車に取り付ける場合は、アンテナの先端は地上から3.5m以下にしてください。
2. 横は車幅からはみ出さないようにしてください。
3. 車体の1/10以上後へ出ないようにしてください。
4. ケーブル等の配線は、車体にしっかりと固定してください。
5. 見通しの良い場所、屋根の上などに取り付ける時は、必ず避雷設備の有無を確認してください。無い場合は落雷の恐れがあります。

7 接続配線方法

万一ショートした場合危険ですから、取り付け、結線作業前には必ず車のバッテリーの(－)側ケーブルをはずしてください。作業が完全に終了するまでは、ケーブルは接続しないでください。

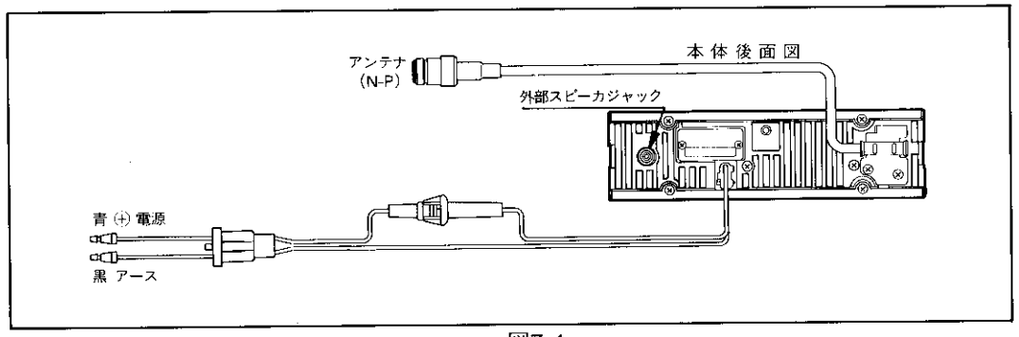


図7.1

1. 電源の接続

電源関係は2本ありますので注意して作業してください。

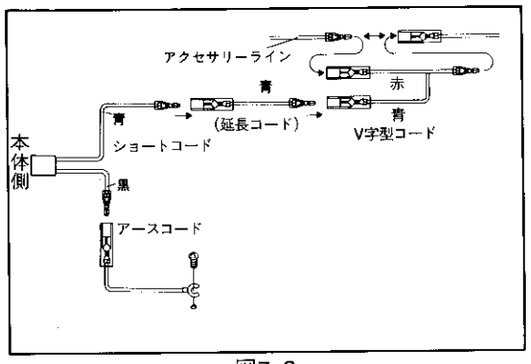


図7.2

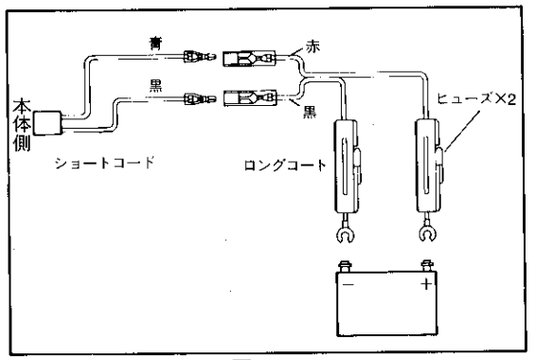


図7.3

❶ V字形コードを用いた接続

⊕電源(青コード)は、カーラジオ、シガーライター等のキーOFFできる車のアクセサリーラインに接続します。接続には、付属のV字形コードを用いてください。また必要に応じて延長コードを使用してください。

アース(黒コード)は、アースコードを用いて車体のアースに接続します。

❷ 別販のロングコード(CCA-077：2.7m)を用いた接続

バッテリーから直接配線すると、電圧低下による送信電力の減少やノイズなどの点で有利です。

配線コードは付属の束線バンドでぶつからないようにたばねてください。

12 操作方法(上級コース)

1. 通話時間制限

通話チャンネルが混雑していると通話時間は制限を受けます。この制限には5分通話制限と1分通話制限があります。

(1) 1分通話制限

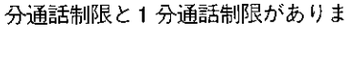
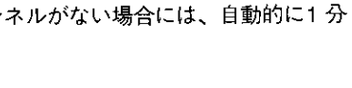
158chモード連続通話で呼出そうとする時、連続通話チャンネルに空チャンネルがない場合には、自動的に1分通話チャンネルに移ります。

この時には11-2 注意3と同様に1分間の通話制限を受けます。

(2) 5分通話制限

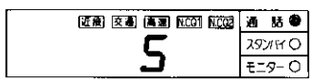
通話チャンネルが混雑してきて空チャンネルが少なくなると、連続通話で呼出す場合または連続通話で交信している場合に、5分間の時間制限を受けることがあります。

この時にはプレストークボタンを押しても、または相手からの信号を受信しても、通話時間の更新・延長はできません（注意2参照）。

注意		
1. 5分通話制限を受けた通話が終了してスタンバイ状態に戻った後1分間は、同じ群番号での呼出しは受けません。		
2. 5分通話制限を受けている時は通話時間が更新されないので、プレストークボタンを押したり、相手の信号を受信しても11-2注意6 のような連続送受信時間 5 は表示されず、通話制限の残り時間が2秒間表示されます。 また、そのままの状態で1分が経過する毎に残り時間を2秒間表示します。 5分通話制限を受けてから4分が経過すると「ピロピロピロ」音で知らせて、11-2注意5 と同じダウンカウントをします。 カウント終了後は、送信時も受信時もスタンバイ状態に戻ります。	ピッ (残り時間 3分以内)	
	〈1分後〉 〈2秒間〉	
	ピロピロピロ (5分通話 制限4分後)	
3. 自分のセットが時間制限を受けていなくても、相手のセットが時間制限を受けている場合があります。この時は、相手の信号を受信するたびに、相手セットの残り時間を左端に、自分のセットの時間を中央に2秒間表示します。	(相手セット 残り時間 1分以内)	

8. 再呼び（リコール）

呼出しをしても相手が出ない場合や、グループで交信中にスタンバイ状態に戻ってしまった仲間がいる場合に、これらの局を自分が現在使用中のチャンネルに引込むために使います。

❶	通話受信状態であることを確認し、再呼 キーかマイクの RE CALL ボタンを押します。 （例えば、「08940」で通話中の場合）	ビッ	
❷	出ない場合には、❶の操作を繰り返してください。	（ピッ） ⋮	

注意
1. 一般呼出で呼出した方も呼出された方もリコールはできません。
2. 1分通話で呼出された方はリコールできません。
3. 各モニターから通話に入った場合、リコールはできません。

2. スピーカマイクの接続

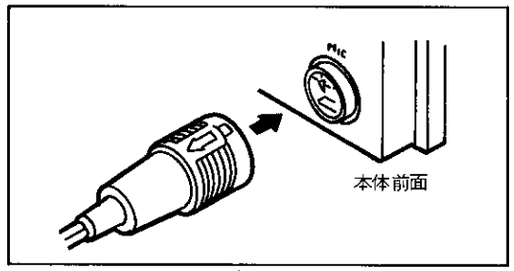


図7.4

本体前面のマイクジャックにマイクプラグを差込みます。この時マイクプラグの矢印が、上方向を向くようにして差込んでください。

3. アンテナケーブルの接続

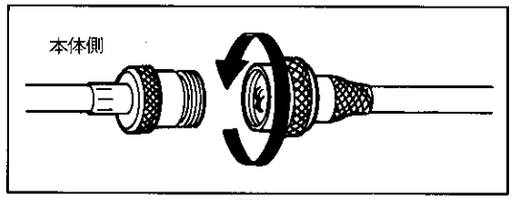


図7.5

グレーの太いケーブルについているN型コネクターをアンテナケーブルのコネクターに確実にねじ込みます。

4. 外部スピーカの接続

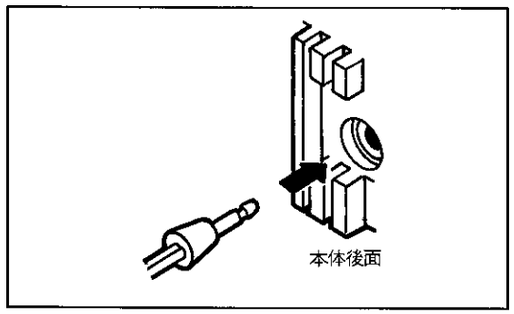


図7.6

本体後面の外部スピーカジャックに別販の外部スピーカ（SPA-859、SPA-922、SPA-923、SPA-924）を接続します。
スピーカマイクからの音は止まり、外部スピーカから音が聞こえます。

5. 接続上の注意

1. 取付位置、配線は高熱部を避け、水等の入らない場所を選んでください。
2. 配線コードがぶらぶらしない様に、クランプ、テープ等でしっかり固定します。ボルト頭、板金のエッジなど、コードを傷付ける場所は避けてください。
3. ヒューズが切れた時は、付属のもの、または同定格のものに交換してください。
4. ヒューズが再々切れる場合は、本体の故障、接続の誤りが考えられます。お求めの販売店、または当社代理店にご相談ください。

8 各部の名称と働き

1. 操 作 部

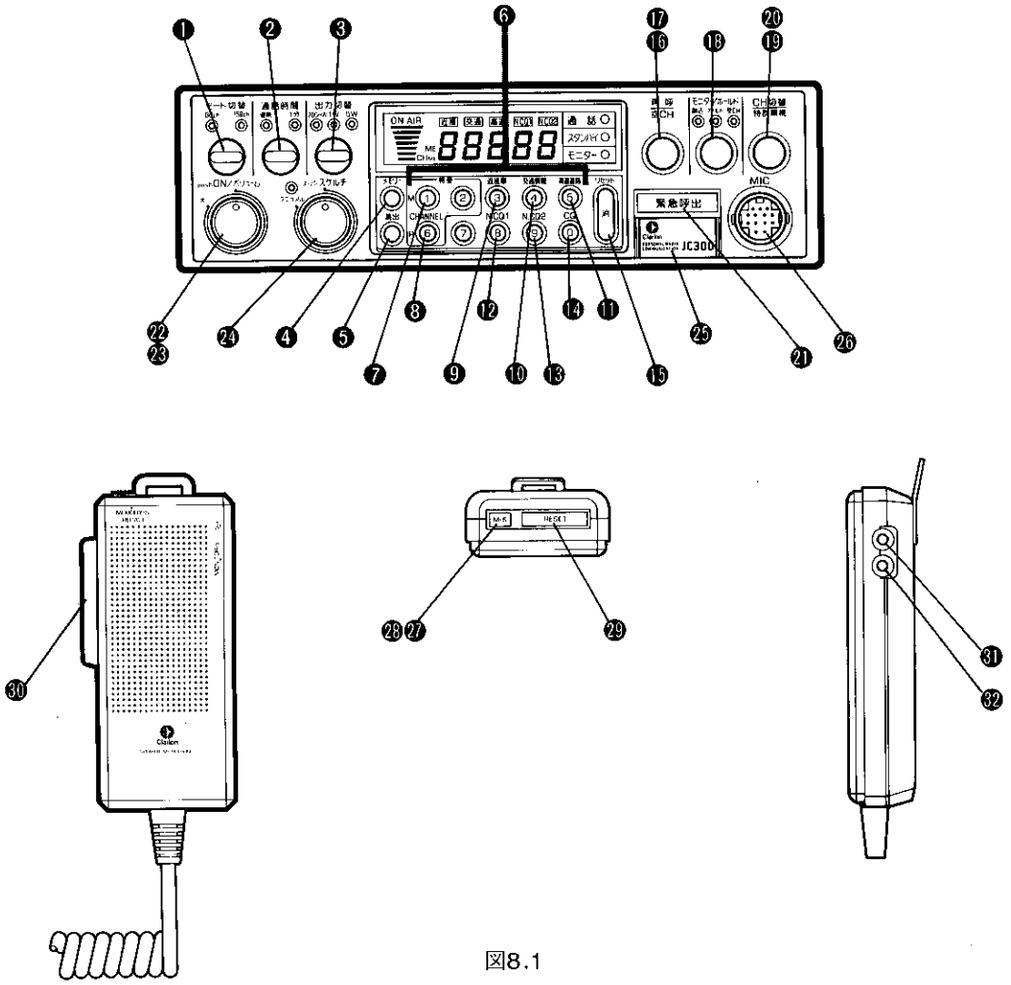


図8.1

❶ **モード切替キー**

80chモードと158chモードを切替えるキーです。

❷ **通話時間キー**

連続通話と1分通話を切替えるキーです。

❸ **出力切替キー**

送信出力を5W／1W／200mW から選択するキーです。

❹ **メモリーキー**

群番号をメモリーする場合、このキーを押してからメモリー番号を押します。

❺ **読出キー**

群番号をメモリーから読出す場合、このキーを押してからメモリー番号を押します。

❻ **0~9（数字）キー**

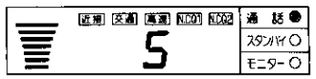
群番号やメモリー番号を設定するキーです。

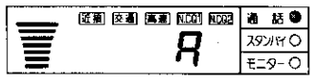
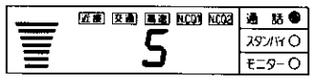
7. 特定通信用群番号の受信無視

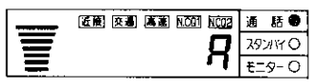
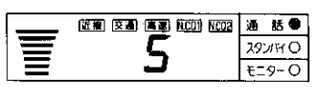
特定通信用群番号での受信は4種類の設定が可能です。

❶	スタンバイ状態であることを確認します。 （例えば、「08940」で待受けの場合）		08940 スタンバイ●
❷	特群無視 キーを押します。 緊急呼出以外では受信しません。	ピッ	08940 スタンバイ●
	特群無視 キーを押します。 N.CQ1 N.CQ2 を待受けます。	ピッ	08940 N.CQ1 N.CQ2 スタンバイ●
	特群無視 キーを押します。 近接 交通 高速 を待受けます。	ピッ	08940 近接 交通 高速 スタンバイ●
	特群無視 キーを押します。 近接 交通 高速 N.CQ1 N.CQ2 を待受けます。 以降、このキーを繰り返し押すことにより、待受けの設定も順次切替わります。	ピッ	08940 近接 交通 高速 N.CQ1 N.CQ2 スタンバイ●

注意
1. 緊急呼出は常時待受けで、待受け無視の設定はできません。
2. 待受けを無視している特定通信用群番号でも送信はできます。
3. モニター、割込みモニター、空チャンネルモニターのサーチ停止時にも設定可能です。

	(4) 緊急呼出用群番号で呼出された場合		
❶	呼出し音を鳴らし、特定通信用群番号待受け表示の下を5個の[A]表示で示します。[5W]表示を点灯させて大ゾーンに切替わり、さらに[ホールド]表示を点灯させて、ホールド状態に入ります。	ピーポピーポピーポ（音声信号）	
❷	(1) ❷以降の操作をします。	ピッ（音声信号）	

	(5) ナローCQ1で呼出された場合		
❶	呼出し音を鳴らし、ナローCQ1用群番号待受け表示の下を[A]表示で示します。[5W]表示を点灯させて大ゾーンに切替わり、さらに[ホールド]表示を点灯させて、ホールド状態に入ります。	ブピブピブピ（音声信号）	
❷	(1) ❷以降の操作をします。	ピッ（音声信号）	

	(6) ナローCQ2で呼出された場合		
❶	呼出し音を鳴らし、ナローCQ2用群番号待受け表示の下を[A]表示で示します。[200mW]表示を点灯させて小ゾーンに切替わり、さらに[ホールド]表示を点灯させて、ホールド状態に入ります。	ブピブピブピ（音声信号）	
❷	(1) ❷以降の操作をします。	ピッ（音声信号）	

注意

1. 近接車通信用群番号、ナローCQ2で交信中は小ゾーン(200mW)、他の4つの特定通信用群番号で交信中は大ゾーン(5W／1W)に固定です。
2. 大ゾーン(5W／1W)の時には、[出力切替]キーを押してもホールド状態から通話状態に移ります。
3. チャンネルモードや通話時間は、相手からの信号を受けて自動的に変わります。

❼ [CHANNEL][M]キー

通話、ホールド、モニター状態でこのキーを押すと、その時使用中の通話チャンネルと群番号を記憶します。

❽ [CHANNEL][R]キー

スタンバイ状態でこのキーを押すと、[CHANNEL][M]キーで記憶した通話チャンネルと群番号に従って、モニター動作をします。

❾ [近接車] キー

近接車通信用群番号で発呼する場合には、スタンバイ状態でこのキーを押します。

❿ [交通情報]キー

交通情報通信用群番号で発呼する場合には、スタンバイ状態でこのキーを押します。

⓫ [高速道路]キー

高速道路通信用群番号で発呼する場合には、スタンバイ状態でこのキーを押します。

⓬ [N.CQ1]キー

新システムの一般呼び出し1で発呼する場合には、スタンバイ状態でこのキーを押します。

⓭ [N.CQ2]キー

新システムの一般呼び出し2で発呼する場合には、スタンバイ状態でこのキーを押します。

⓮ [CQ]キー

スタンバイ状態でこのキーを押すと、一般呼び出しの群番号が設定されます。

⓯ [リセット][消]キー

群番号を新しく設定する場合や、メモリー操作、通話・ホールド状態、各モニターサーチをスタンバイ状態に戻す場合などは、このキーを押します。

⓰ [再呼]キー

通話状態でこのキーを押すと、制御チャンネルにいる同じ群番号の局を現在使用中の通話チャンネルに引き上げます。

⓱ [空CH]キー

スタンバイ状態で、このキーを押してから[モニター／ホールド]キーを押すと、空チャンネルモニター状態になります。空チャンネルモニターのサーチ停止時に再びこのキーを押すと、その空チャンネルを記憶して次の空チャンネルを捜します。

⓲ [モニター／ホールド]キー

スタンバイ状態でこのキーを押すと、モニター状態になります。

モニターのサーチ停止時にこのキーを押すと、次のモニターサーチに移ります。

スタンバイ状態でこのキーを1.5秒以上押すと、割込みモニター状態になります。

割込みモニターのサーチ停止時にこのキーを押すと、次の割込みモニターサーチに移ります。

ホールド状態でこのキーを押すと、通話状態になります。

[空CH]キーを押してからこのキーを押すと、空チャンネルモニター状態になります。空チャンネルモニターのサーチ停止時にこのキーを押すと、その空チャンネルは記憶せずに次の空チャンネルを捜します。

⓳ [CH切替]キー

通話・ホールド状態の混信時にこのキーを押すと、空いている別のチャンネルにチャンネル替えできます。

割込みモニターのサーチ停止時にこのキーを押すと、現在のモニターを継続します。

⓴ [特群無視]キー

特定通信用群番号の待受けを無視する場合には、スタンバイ、モニター状態でこのキーを押します。

㉑ [緊急呼出]キー

緊急呼出用群番号で発呼する場合には、スタンバイ状態でこのキーを押します。

㉒ **push ON スイッチ**

このスイッチで電源をON／OFFします。

㉓ **ボリューム ツマミ**

受信時の音量や動作音を調整します。

㉔ **スーパースケルチ ツマミ**

スケルチのレベルを調整します。

㉕ **ROM カバー**

返送されてきたROMカートリッジを取り付ける時、ここをはずして挿入します。

㉖ **MIC ジャック**

スピーカマイクのプラグを接続します。

㉗ **MEMORY・S** **MS ボタン**

スタンバイ状態、モニターのサーチ停止状態でこのボタンを押すと、メモリーされている群番号を押している間だけ順次読出します。

㉘ **RECALL** **MS ボタン**

通話状態でこのボタンを押すと、本体の **再呼** キーと同様に再呼び出しをします。

㉙ **RESET ボタン**

モニター、ホールド、通話状態などをスタンバイ状態に戻す場合には、このボタンを押します。

㉚ **プレス トーク ボタン**

押すと送信、離すと受信です。

㉛ **SQ ボタン**

スーパースケルチとマニュアル スケルチを切替えるボタンです。

㉜ **MONITOR・S ボタン**

本体の **モニター／ホールド** キーと同様の働きをします。

2. 表 示 部

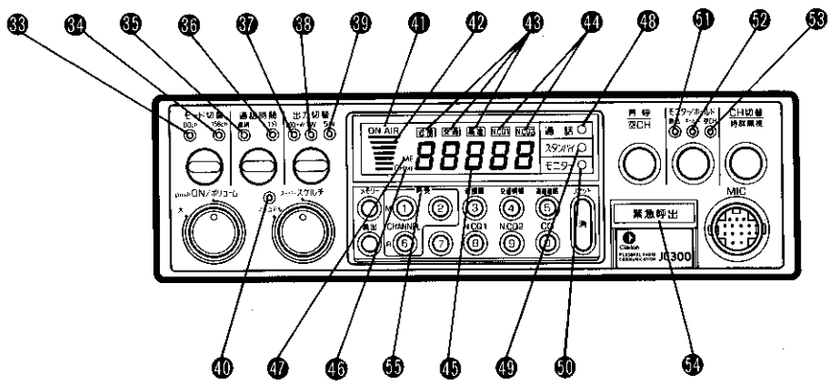
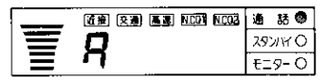
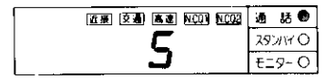
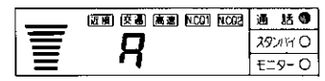
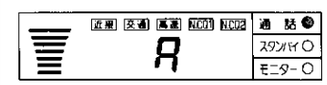
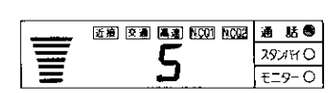


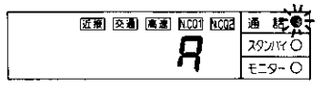
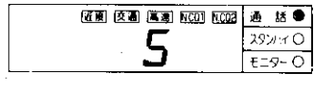
図8.2

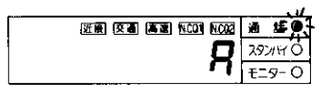
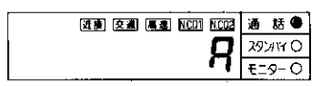
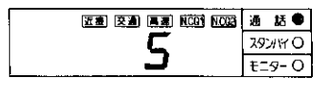
6. 特定通信用群番号での受信

	（1）近接車通信用群番号で呼出された場合		
❶	呼出し音を鳴らし、近接車通信用群番号待受け表示の下を **A** 表示で示します。**200mW** 表示を点灯させて小ゾーンに切替わり、さらに **ホールド** 表示を点灯させて、ホールド状態に入ります。	ピロリピロリー（音声信号）	
❷	30秒以内にプレストークボタンか **モニター／ホールド** キーか **MONITOR・S** ボタンを押します。**ホールド** 表示を消し、通話状態に移ります。以後、10-5（1）❻ 以降の操作を繰返します。	ピッ	
❸	通話を終了する場合には、マイクの **RESET** ボタンか **リセット** **消** キーを押します。スタンバイ状態に戻り、受信前の群番号を表示します。（例えば、送信前「08940」だった場合）	ピッ	

	（2）交通情報通信用群番号で呼出された場合		
❶	呼出し音を鳴らし、交通情報通信用群番号待受け表示の下を **A** 表示で示します。**5W** 表示を点灯させて大ゾーンに切替わり、さらに **ホールド** 表示を点灯させて、ホールド状態に入ります。	ピロリピロリー（音声信号）	
❷	（1）❷ 以降の操作をします。	ピッ（音声信号）	

	（3）高速道路通信用群番号で呼出された場合		
❶	呼出し音を鳴らし、高速道路通信用群番号待受け表示の下を **A** 表示で示します。**5W** 表示を点灯させて大ゾーンに切替わり、さらに **ホールド** 表示を点灯させて、ホールド状態に入ります。	ピロリピロリー（音声信号）	
❷	（1）❷ 以降の操作をします。	ピッ（音声信号）	

	(5) 新システムでの一般呼出1(ナローCQ1)…特に使用目的は決められていません。		
❶	スタンバイ状態であることを確認し、[N. CQ1] キーを押します。 ナローCQ1 用群番号待受け表示の下を[A](アクセス) 表示で示します。	ピッ	
❷	出力が大ゾーン(5W)に切替わり、[ホールド]表示を点灯させて、ホールド状態になります。	ピッ	
❸	30秒以内にプレストークボタンか[モニター／ホールド]キーか[MONITOR・S]ボタンを押します。 [ホールド]表示を消し、通話状態に移ります。 以後、10-5 (1) ❺以降の操作を繰返します。	ピッ	
❹	通話を終了する場合には、マイクの[RESET]ボタンか[リセット][消]キーを押します。 スタンバイ状態に戻り、送信前の群番号を表示します。 (例えば、送信前「08940」だった場合)	ピッ	

	(6) 新システムでの一般呼出2(ナローCQ2)…特に使用目的は決められていません。		
❶	スタンバイ状態であることを確認し、[N. CQ2] キーを押します。 ナローCQ2用群番号待受け表示の下を[A] (アクセス)表示で示します。	ピッ	
❷	出力が小ゾーン(200mW)に切替わり、[ホールド]表示を点灯させて、ホールド状態になります。	ピッ	
❸	(5) ❸以降の操作をします。	ピッ	

注意

1. 近接車通信用群番号、ナローCQ2で交信中は小ゾーン(200mW)、他の4つの特定通信用群番号で交信中は大ゾーン(5W／1W) に固定です。
2. 大ゾーン(5W／1W)の時には、[出力切替]キーを押してもホールド状態から通話状態に移ります。

❸❸ **[80ch]表示**

80chモード時に点灯します。

❸❹ **[158ch]表示**

158chモード時に点灯します。

❸❺ **[連続]表示**

連続通話時に点灯します。

❸❻ **[1分]表示**

1分通話時に点灯します。

❸❼ **[200mW]表示**

200mW出力時に点灯します。

❸❽ **[1W]表示**

1W出力時に点灯します。

❸❾ **[5W]表示**

5W出力時に点灯します。

❹❿ **[マニュアル]表示**

マニュアル スケルチ時に点灯します。

❹❶ **[ON AIR]表示**

通話送信状態で点灯します。

❹❷ **レベルインジケータ**

入力信号と送信出力のレベルを表示します。

❹❸ **[近接][交通][高速]表示**

特定通信用群番号のうち、近接車／交通情報／高速道路通信用群番号で待受けている時に点灯します。

❹❹ **[N.CQ1][N.CQ2]表示**

新システムの一般呼び出し1と、一般呼び出し2で待受けている時に点灯します。

❹❺ **ディスプレイ**

群番号、メモリー番号、残り時間、特定通信用群番号指定メッセージ(A)、エラー操作メッセージ(E)の各表示をします。

❹❻ **[CHME]表示**

[CHANNEL][M]キーで群番号と使用チャンネルを記憶している間点灯します。

❹❼ **[ME]表示**

[メモリー]キー、[読出]キー、[MEMORY・S][MS]ボタンでメモリーを操作中に点灯します。

❹❽ **[通話]表示**

通話状態、ホールド状態で点灯します。

相手を呼出す場合の空チャンネルサーチ中に点滅します。

❹❾ **[スタンバイ]表示**

スタンバイ状態で点灯します。

❺❿ **[モニター]表示**

モニター、割込みモニター、空チャンネルモニター状態で点灯します。

モニター、割込みモニター状態で、群番号が一致した時点滅します。

❺❶ **[割込]表示**

割込みモニター状態で点灯します。

❺❷ **[ホールド]表示**

ホールド状態で点灯します。

❺❸ **[空CH]表示**

空チャンネルモニター状態で点灯します。

❺❹ **[緊急呼出]表示**

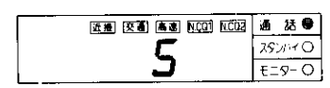
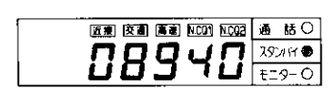
常時点灯しており、[緊急呼出]キーの位置を示します。

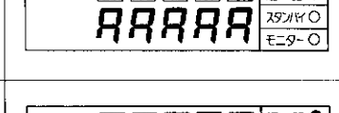
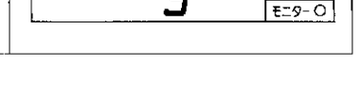
❺❺ **[待受]表示**

ディスプレイに表示されている群番号、特定通信用群番号の他に、メモリー1、2、6に記憶されている群番号でも待受けます。

3. 動 作 音

種　　類	動　　作　　音
ピッ	有効キーを入力した時の操作音
ブブッ	許可されてないキーを入力した時の誤操作音
プー	群番号設定時やメモリー操作時のキー入力待ち終了音 ホールド、通話状態の終了音
ピロロ	群番号設定時やメモリー操作時の完了音 モニター、割込みモニター時の群番号一致音
ピピピ	各モニター時の1周サーチ音
ピン	1分通話受信音
ピロリピロリー	近接車、交通情報、高速道路通信用群番号着呼音
ブビブピブビ	N.CQ1、N.CQ2着呼音
ピロロ ピロロ ピロロ	CQ、任意群番号着呼音
ピーポ ピーポ ピーポ	緊急呼出着呼音
ピ――	緊急呼出発呼音
ピロピロピロ	5分通話制限時の残り時間1分前の予告音
ピロピロ	連続通話時の残り時間30秒前の予告音
ブッ	通話、ホールド時の秒カウント10秒間隔音
プッ	通話、ホールド時の残り時間3秒前からの秒間隔音

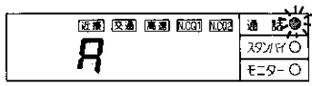
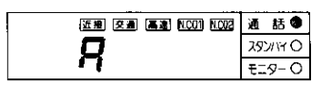
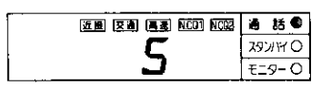
	(3) 高速道路通信用群番号での送信…高速道路走行時の交信に使用します。		
❶	スタンバイ状態であることを確認し、[高速道路]キーを押します。 高速道路通信用群番号待受け表示の下を[A]（アクセス）表示で示します。	ピッ	
❷	出力が大ゾーン(5W)に切替わり、[ホールド]表示を点灯させて、ホールド状態になります。	ピッ	
❸	30秒以内にプレストークボタンか[モニター／ホールド]キーか[MONITOR・S]ボタンを押します。 [ホールド]表示を消し、通話状態に移ります。 以後、10-5（1）❺以降の操作を繰返します。	ピッ	
❹	通話を終了する場合には、マイクの[RESET]ボタンか[リセット][消]キーを押します。 スタンバイ状態に戻り、送信前の群番号を表示します。 （例えば、送信前「08940」だった場合）	ピッ	

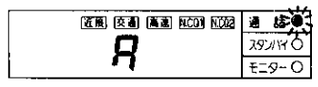
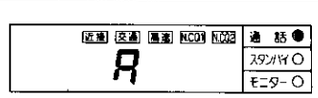
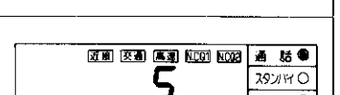
	(4) 緊急呼出用群番号での送信…緊急時の交信に使用するものです。		
❶	スタンバイ状態であることを確認し、[緊急呼出]キーを押します。 特定通信用群番号待受表示の下を5個の[A]（アクセス）表示で示します。	ピッ	
❷	5秒間、緊急音を出します。	ピ――	
❸	出力が大ゾーン(5W)に切替わり、[ホールド]表示を点灯させて、ホールド状態になります。	ピッ	
❹	(3) ❸以降の操作と同じです。	ピッ	

5. 特定通信用群番号での送信

新システムを採用したJC300では、**パーソナル無線同士で特定の情報を交換する**ための新たな6つの群番号（統一規格で設定されている群番号）があります。

この特定通信用群番号は、群番号を設定せずにワンタッチで送信できます。

	（1）近接車通信用群番号での送信…近くにいる車との交信などに使用します。		
❶	スタンバイ状態であることを確認し、近接車 キーを押します。 近接車通信用群番号待受け表示の下を A （アクセス）表示で示します。	ピッ	
❷	出力が小ゾーン（200mW）に切替わり、ホールド 表示を点灯させて、ホールド状態になります。	ピッ	
❸	30秒以内にプレストークボタンか モニター／ホールド キーか MONITOR・S ボタンを押します。 ホールド 表示を消し、通話状態に移ります。 以後、10-5（1）❺以降の操作を繰返します。	ピッ	
❹	通話を終了する場合には、マイクの RESET ボタンか リセット キーを押します。 スタンバイ状態に戻り、送信前の群番号を表示します。 （例えば、送信前「08940」だった場合）	ピッ	

	（2）交通情報通信用群番号での送信…交通情報を交換する時の交信に使用します。		
❶	スタンバイ状態であることを確認し、交通情報 キーを押します。 交通情報通信用群番号待受け表示の下を A （アクセス）表示で示します。	ピッ	
❷	出力が大ゾーン（5W）に切替わり、ホールド 表示を点灯させて、ホールド状態になります。	ピッ	
❸	（1）❸ 以降の操作と同じです。	ピッ	

9 準備

❶電源の「OFF」を確かめた上で、㈶電気通信振興会から返送されてきたROMカートリッジを挿入します。まず、ROMカバーの下側からROM装着工具を差込み、ひねってROMカバーをはずします（図9.1参照）。次に、ROMカートリッジを方向を正しく合わせて挿入し、装着工具で押込みます（図9.2参照）。最後にROMカバーをはめ込みます（図9.3参照）。

注意
- **免許申請前のROMカートリッジは絶対に本体に装着しないでください。**
- ROMカートリッジは精密なICを組込んでいますので、静電気の起きやすい所に置いたり、強いショックを与えたり、また電極部に手で触れたりしないでください。
- 一度挿入したROMカートリッジは取り外しできませんので、装着は注意深く行なってください。

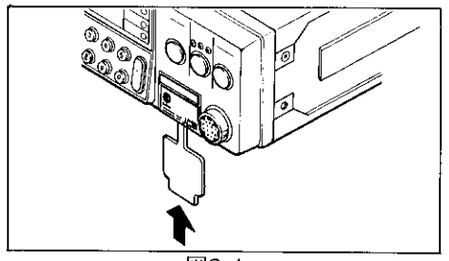


図9.1

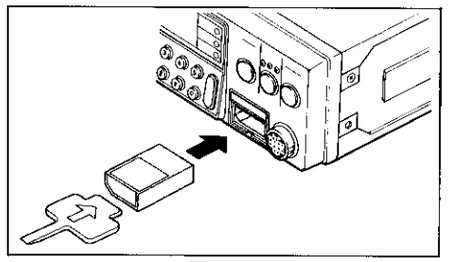


図9.2

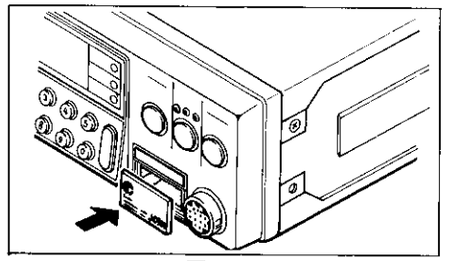


図9.3

❷電源・アースコード（7-1参照）、マイクプラグ（7-2参照）、アンテナコネクター（7-3参照）の接続配線を確認します。

❸ボリューム ツマミと スーパースケルチ ツマミを右方向へ回し、スケールの1/3程度の位置に合わせます（図9.4参照）。

❹push ON スイッチを押して、電源を投入します。モード切替、通話時間、出力切替の各表示と、特定通信用群番号待受け表示、5桁の群番号の表示、さらにスタンバイ表示が点灯すれば、無線機は正常に動作しています。

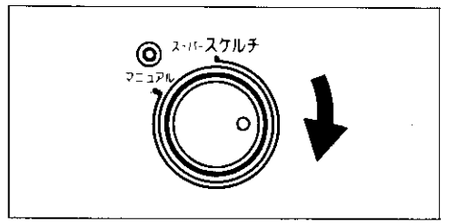
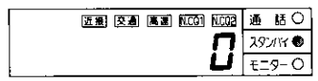
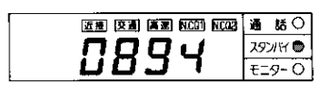


図9.4

10 操作方法(初級コース)

1. 群番号の設定

通話するためには、任意の5桁の数字からなる群番号を設定しなければなりません。任意群番号は、「00001」～「99999」の範囲で設定します。

❶	個人で、またはグループで群番号を決めます。 (例えば、「08940」を設定する場合)		
❷	スタンバイ状態であることを確認し、[リセット][消]キーを押します。	ピッ	
❸	[0]～[9]の数字キーを押し、上位桁から群番号を設定していきます。 (例えば、[0]→[8]→[9]→[4]…)	ピッ ピッ ピッ ピッ	
❹	5桁目の数字キーを入力して、完了音が鳴ったら設定完了です。 (例えば、[0])	ピッ ピロロ	

注意

1. 数字キーの入力は、前回のキー入力後、5秒以内です。これを越えると、終了音で知らせ、設定開始前の群番号表示に戻ります。	プー	
2. 設定途中で許可されていないキーを入力した場合には、誤操作音とエラー表示で知らせ、設定開始前の群番号表示に戻ります。 以降、誤操作入力に対して、同様のエラー処理が行なわれます。	ブブッ	
3. 誤った数字キーを入力した場合など、途中で設定を中止したい場合には、再度[リセット][消]キーを押すか、マイクの[RESET]ボタンを押します。設定開始前の群番号表示に戻ります。	ピッ	
4. 群番号の設定は、モニター、割込みモニター、空チャンネルモニターのサーチ停止時にもできます。		

4. 一般呼出（CQ）

一般呼出(CQ)は**不特定の相手と交信したい時に使う**もので、群番号は必ず「00000」で行ないます。

	(1) 一般呼出		
❶	スタンバイ状態であることを確認します。 (例えば、「08940」で待受けている場合)		
❷	[CQ]キーを押します。	ピッ ピロロ	
❸	以後10-5 (1)❷以降の操作を行なうことにより「00000」で待受けている局を呼出すことができます。	ピッ ピッピッ	

注意

1. 一般呼出用群番号の設定は、通常の群番号設定(10-1参照)やメモリーの読出し(10-3参照)によっても行なえます。
2. 一般呼出用群番号の設定条件は10-1 注意4と同じです。

	(2) 一般呼出での待受け		
❶	デイスプレイかメモリー 1、2、6のいずれかに「00000」を設定します。 (例えば、「00000」をメモリー2にセットし、表示は「08940」の場合)		
❷	「00000」で呼出されるとその群番号を表示し、呼出音で知らせた後[ホールド]表示を点灯させてホールド状態になります。	ピロロピロ ロピロロ (音声信号)	
❸	30秒以内に[モニター／ホールド]キーかプレストークボタンか[MONITOR・S]ボタンを押します。 [ホールド]表示が消えて通話状態になります。 10-5 (1)❻以降を繰り返すことにより、通話が続けられます。	ピッ	

注意

1. 連続通話と1分通話では、ホールド状態でのダウンカウント動作が異なります。連続通話では27～0秒(10-5 (2) 注意3参照)であるのに対し、1分通話では57～30秒(11-2 注意5参照)です。
   また、1分通話時のホールド状態でのダウンカウントは、通話状態に移っても継続されます。
2. ホールド状態のまま30秒が経過すると、終了音を出してスタンバイ状態に戻ります。(10-5 (2) 注意3参照)
3. 大ゾーン(5W／1W)の時には、[出力切替]キーを押してもホールド状態から通話状態になります。

3. 5W／1W／200mW 出力切替

新システムを採用したJC300では、送信出力を5W、1W、200mWから選択できます。近距離通話などの場合には、あらかじめ200mWの小ゾーンを設定しておくと、混信の少ない通話ができます。**但し、旧システムとの通話は5W出力か1W出力でなければできません。**

	(1) 相手を呼出す場合		
❶	呼出そうとする相手のセットが旧システムのセットが新システムのセットか確認しておきます。 (例えば、現在5W出力で待受けの場合)		出力切替 200mW 1W 5W ○ ○ ●
❷	スタンバイ状態を確認し、相手が新システムの場合には〈5W／1W／200mW〉の中から、旧システムの場合には〈5W／1W〉から **出力切替** キーで出力を選択します。 (例えば、新システムのセットを200mWで呼出す場合)	ピッ ピッ	出力切替 200mW 1W 5W ● ○ ○
❸	10-5 (1)の手順で相手を呼出します。 (例えば、相手群番号が「08940」の場合)	ピッ ピッピッ	ON AIR 近通 区通 高速 NO1 NO2 通話 スタンバイ モニター 08940

	(2) 相手から呼出される場合		
❶	特に設定する必要はありません。 (例えば、200mW出力で待受けの場合)		出力切替 200mW 1W 5W ● ○ ○
❷	相手のセットが大ゾーン(1W／5W)の時には **5W** 表示、小ゾーン(200mW)の時には **200mW** 表示に自動的に出力を切替えます。 (例えば、大ゾーンで呼ばれた時)	ピロロピロロピロロ (音声信号)	出力切替 200mW 1W 5W ○ ○ ●
❸	リセット動作により、スタンバイ状態に戻ると、もとの出力設定になります。	(ピッ)	出力切替 200mW 1W 5W ● ○ ○

注意

1. 旧システムの通話は大ゾーン(1W／5W)で行ないます。 **出力切替** キーで指定しなくても、 **モード切替** キーで80chモードを指定した時に自動的に200mW出力は5W出力に切替わります(11-1注意 1 参照)。
2. モニターのサーチ停止時及び通話受信状態にある場合には、大ゾーン(5W／1W)での出力はそれぞれ(1W／5W) に切替可能ですが、小ゾーン(200mW)での出力切替はできません。
3. 200mWの小ゾーンでは、受信感度も14dB落とします。

2. メモリーへの書込み

JC300は、10種類の群番号を記憶できる0～9のメモリーを持っています。良く使用する群番号は、あらかじめメモリーに記憶させておくと便利です。

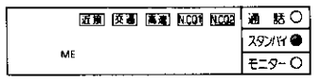
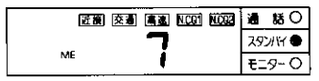
また、メモリー1、2、6に記憶されている群番号は常時待受けの群番号で、通常このメモリーには自分の群番号を3つまで記憶させます。残りの7つのメモリーには、相手の群番号を別に記憶できます。

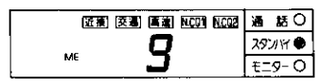
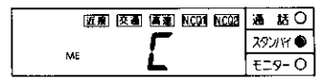
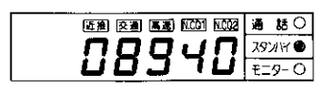
❶	スタンバイ状態であることを確認し、メモリーしたい群番号を設定します。 (例えば「66666」をメモリーする場合)		近通 区通 高速 NO1 NO2 通話 スタンバイ モニター 66666
❷	**メモリー** キーを押します。	ピッ	近通 区通 高速 NO1 NO2 通話 スタンバイ モニター ME
❸	5秒以内に、メモリーしたいメモリー番号を押します。これを越えると、10－1 注意1 と同様の終了処理をします。 (例えば、メモリー4 に記憶する場合は、**4** キーを押します。)	ピッ	近通 区通 高速 NO1 NO2 通話 スタンバイ モニター ME 4
❹	メモリー完了音を出した後、記憶した群番号を再び表示します。	ピロロ	近通 区通 高速 NO1 NO2 通話 スタンバイ モニター 66666

注意

1. メモリーへの書込みは、モニター、割込みモニター、空チャンネルモニターのサーチ停止時にもできます。

3. メモリー内容の読出し

	(1) 読出 キーによる読出し		
❶	スタンバイ状態であることを確認し、読出 キーを押します。	ピッ	
❷	5 秒以内に、読出したいメモリー番号を押します。これを越えると、10−1注意1と同様の終了処理をします。 (例えば、メモリー7に記憶している「33333」を読出す場合、7 キーを押します。)	ピッ	
❸	読出し完了音を出した後、読出した群番号をディスプレイに表示します。	ピロロ	

	(2) MS ボタンによる読出し		
❶	スタンバイ状態であることを確認し、マイクの MS ボタンを押します。 前回に MS ボタンで読出したメモリーの次から読出します。(例えば、前回メモリー8まで読出した場合、次はメモリー9から読出します。)	ピッ	
❷	読出し完了音を出した後、読出した群番号をディスプレイに表示します。 (例えば、メモリー9の内容が「99999」だった場合)	ピロロ	
❸	以後、MS ボタンを押している間順次メモリー内容を読出し、表示します。但し、メモリー9の次はメモリーCです。 (注意2参照)	ピッ	
❹	(例えば、メモリーCの内容が「08940」だった場合)	ピロロ	

注意

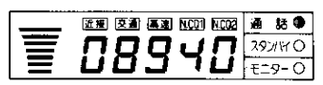
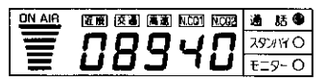
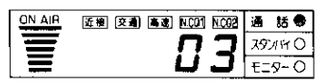
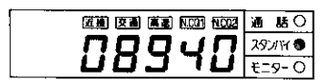
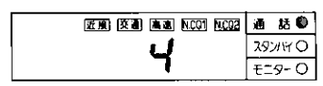
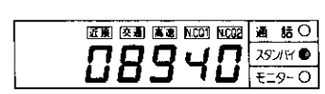
1. メモリー内容の読出しは、モニター、割込みモニター、空チャンネルモニターのサーチ停止時（但し、群番号が一致していない時）にもできます。
2. メモリーCとは「カレントメモリー」と呼ばれるもので、最後に設定された群番号か、最後に読出 キーで読出された群番号を記憶しておくメモリーです。

注意

1. 旧システムとの通話は連続通話で行ないます。通話時間 キーで指定しなくても、モード切替 キーで80ch を指定した時に自動的に1分通話から連続通話に切替わります (11-1 注意1参照)。

2.1分通話の場合にはプレストークボタンを押しても、通話時間の更新・延長はできません。

3.1分通話で呼出す時、1分通話チャンネルが一杯の場合には連続通話チャンネルに移ります。1分通話制限は受けたままです。

4.1分通話時には、相手からの信号を受信するたびに1分通話音で知らせます。 (例えば、「08940」で通話中の場合)	ピン	
5.1分通話の場合、ホールド状態は10-5(2) 注意3と同様に3秒間群番号表示、7秒間ダウンカウント表示を繰り返しながら30秒間保持します。但し、ダウンカウントは57～30秒までであり、終了時には「プー」音で知らせます。 また、途中で通話状態になった場合には、ホールド状態からのダウンカウントを継続して行ないます。この時には、終了3 秒前から1秒毎に「プッ」音で知らせ、終了時にも「プー」音で知らせます。	〈3秒間〉	
	〈3秒後〉	
	ブッ 〈10秒後〉 〈3秒間〉	
	ブッ 〈57秒後〉	
	プー 〈60秒後〉	
6. 連続通話時に連続送受信時間 5 を2秒間表示した後、そのままの状態で1分が経過する毎に 4 、3 、2 、1 と残り時間を表示します。 4分30秒が経過すると「ピロピロ」音で知らせて、10-5 (2)注意3と同じダウンカウントをします。 カウント終了後、送信状態は受信状態に、受信状態はスタンバイ状態に戻ります。 連続送受信時間はプレストークボタンを押すたびに、または相手からの信号を受信するたびに、再び5分に更新されます。	〈1分後〉 〈2秒間〉	
	ピロピロ 〈4分30秒後〉	
	プー 〈5分後〉	

2. 連続／1分通話切替

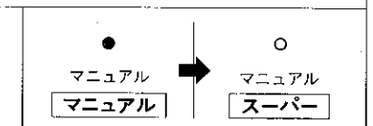
新システムを採用したJC300では、通話時間を連続通話と1分通話（120ch～158ch）から選択できます。1分以内の通話は、あらかじめ1分通話に設定しておくと、混信の少ない通話ができます。**但し、旧システムとの通話は、連続通話でなければできません。**

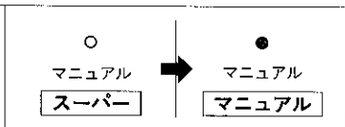
	（1）相手を呼出す場合		
❶	呼出そうとする相手のセットが旧システムのセットか新システムのセットか確認しておきます。 （例えば、現在連続通話で待受けの場合）		通話時間 連続　1分 ●　○
❷	相手が新システムの場合には、通話内容により通話時間を設定できます。スタンバイ状態を確認し、[通話時間]キーを押します。 （例えば、短い用件なので1分通話を指定する場合）	ピッ	通話時間 連続　1分 ○　●
❸	10-5（1）の手順で相手を呼出します。 （例えば、相手群番号が「08940」の場合）	ピッ ピッピッ	

	（2）相手から呼出される場合		
❶	特に設定する必要はありません。 （例えば、連続通話で待受けの場合）		通話時間 連続　1分 ●　○
❷	相手のセットの通話モードにより、自動的に通話時間を切替えます。 （例えば、1分通話で呼ばれた場合）	ピロロピロロピロロ （音声信号）	通話時間 連続　1分 ○　●
❸	リセット動作により、スタンバイ状態に戻ると、もとの通話時間設定になります。	（ピッ）	通話時間 連続　1分 ●　○

4. スケルチ

スケルチは無信号時にスピーカからの雑音を消すもので、通常はスーパースケルチを使うと便利です。
任意のスケルチレベルで交信する場合は、マニュアルスケルチにします。

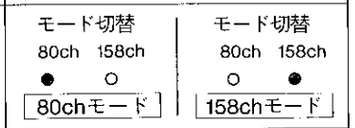
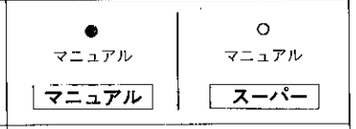
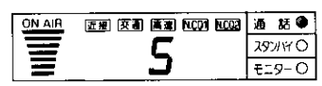
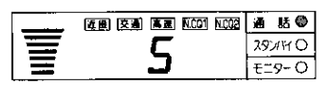
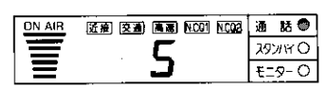
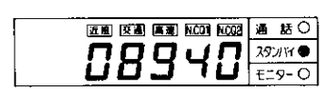
	（1）スーパースケルチ		
❶	**運転中など細かい操作ができない時は、スーパースケルチにします。** マイクの[SQ]ボタンを押すと[マニュアル]表示が消えて、スーパースケルチであることを示します。	ピッ	
❷	入力信号が弱くて音がとぎれる場合には、自動的にスケルチを開きます。また、ある程度良質の信号の場合には、自動的に無信号時の雑音を消します。 （例えば、「08940」で通話中の場合）	（音声信号）	

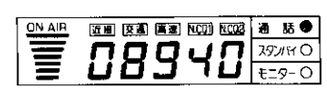
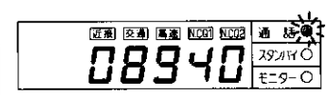
	（2）マニュアル スケルチ		
❶	**モニター及び通話状態で受信している信号が弱い時などは、マニュアルスケルチにします。**マイクの[SQ]ボタンを押すと[マニュアル]表示が点灯して、マニュアルスケルチであることを示します。	ピッ （音声信号）	
❷	スケルチツマミを時計方向に回し、通話内容が聞き取れる範囲内で、雑音が少なくなるよう調整します。		

注意
1. スケルチの切替は、各モニターのサーチ中及び通話送信状態ではできません。

5. 通　　話

スタンバイ状態から通話状態に移るには、相手を呼出す場合と相手から呼出される場合があります。

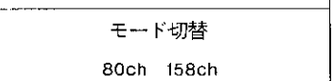
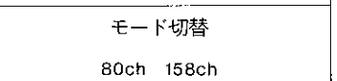
	（1）相手を呼出す場合		
❶	スタンバイ状態を確認し、あらかじめ個人及びグループで決めた**群番号を設定**します。 （例えば、「08940」を設定した場合）		
❷	呼出す相手のセットが旧システムの場合には、[モード切替]キーを押して80chモードに切替える必要があります（11-1参照）。	（ピッ）	
❸	スケルチはマニュアルスケルチでもスーパースケルチでもかまいませんが、スーパースケルチにしておくとその後の調整が不要になり、便利です。	（ピッ）	
❹	**プレストークボタンをある程度長く押します。**連続送信時間[5]を2秒間表示した後、群番号を表示します（11-2注意6参照）。[ON AIR]表示が点灯している時は送信ですので、相手に話しかけてください。レベルインジケータは送信出力に応じて振れます。	ピッ ピッピッ	
❺	**プレストークボタンを離すと受信になります。**連続受信時間[5]を2秒間表示した後、群番号を表示します（11-2注意6参照）。レベルインジケータは、入力感度に応じて振れます。	（音声信号）	
❻	再び話しかける場合には、相手が受信状態になってから、再度プレストークボタンを押します。以後、❺からの繰り返しで通話ができます。	ピッ	
❼	通話を終了する場合には、受信状態で[リセット][消]キーか、マイクの[RESET]ボタンを押します。	ピッ	

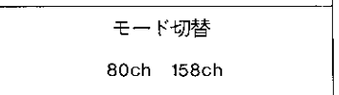
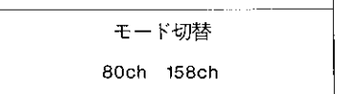
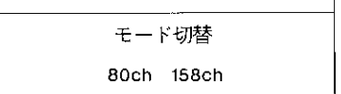
注意		
1. [リセット][消]キーか[RESET]ボタンを押さなくても、受信状態で何の操作もしないまま[通話時間]キーで設定してある時間が経過するとスタンバイ状態に戻ります。		
2.❹でプレストークボタンを軽く押すと、[ホールド]表示を点灯させ、ホールド状態で止まります。 もう一度、プレストークボタンを押すと、通話状態になります。	ピッ	
3.呼出す時に、空チャンネルを捜している間は[通話]表示が点滅します。		

11 操作方法（中級コース）

1. 80ch／158ch モード切替

新システムを採用したJC300では、158チャンネルを使用して通話を行ないますが、**80チャンネルを使用している旧システムのセットと交信する場合には、モードを80chモードに切替える**必要があります。

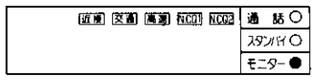
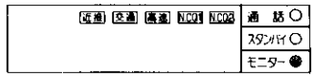
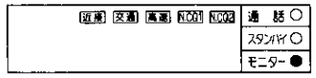
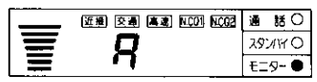
	（1）相手を呼出す場合		
❶	呼出そうとする相手のセットが旧システムのセットか新システムのセットか確認しておきます。 （例えば現在158chモードで待受けの場合）		
❷	相手のセットのシステムとモード表示が一致しているかどうか確かめます。もし、一致していなければ、スタンバイ状態を確認し[モード切替]キーでチャンネルモードを切替えます。 （例えば、相手が旧システムだった場合）	ピッ	
❸	10-5（1）の手順で相手を呼出します。 （例えば、相手群番号が「08940」の場合）	ピッ ピッピッ	

	（2）相手から呼出される場合		
❶	特に設定する必要はありません。 （例えば、158chモードで待受けの場合）		
❷	呼ばれた時のチャンネル区分により、自動的にチャンネルモードを切替えます。 （例えば、68chで呼ばれた場合）	ピロロピロ ロピロロ （音声信号）	
❸	リセット動作により、スタンバイ状態に戻ると、もとのモード設定になります。	（ピッ）	

注意
1. 80chモードには1分通話及び小ゾーン（200mW）はありませんので、これらの設定をしようとしてキー入力しても、自動的に有効な設定に切替わります。

7. 割込みモニター

現在待受けている群番号(注意３参照)と同じ群番号の通話が見つかるまで、モニターしながら捜がします。

❶	スタンバイ状態を確認し、モニターまたは待受けしたい群番号を設定します。 (例えば、「08940」で待受ける場合)		
❷	**モニター／ホールド** キーかマイクの **MONITOR・S** ボタンを**1.5秒以上押します。** **割込** 表示が点灯し、割込みモニター状態であることを知らせます。 サーチ中は群番号が消えます。	ピッ	
❸	通話しているチャンネルを見つけると、サーチを停止して、再び群番号を表示します。レベルインジケータは入力信号に応じて振れます。	(音声信号)	
❹	更に違う通話を割込みモニターする場合には、**モニター／ホールド** キーか **MONITOR・S** ボタンを押します。	ピッ	
	同じチャンネルをモニターしていたい場合には、**CH切替** キーを押してください。 再びサーチする場合には **モニター／ホールド** キーか **MONITOR・S** ボタンを押します。	ピッ (音声信号)	
	停止して1秒以上信号がとぎれた時、群番号が一致しなかった時、またはキー入力なしに30秒間モニターした場合には、自動的に割込みモニターサーチに移ります。		
❺	もし、モニターしている群番号と待受けている群番号が一致した場合には、10-6 (1) ❹以降の操作をします。 (例えば、交通情報通信用群番号と一致した場合)	(音声信号) ピロロ	

注意

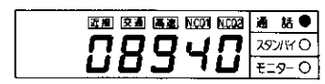
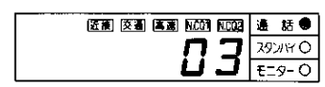
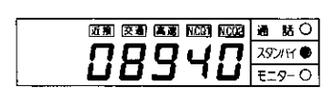
1. サーチ中の「ピピピ」という音はサーチ音です(10-6 (1) 注意1参照)。
2. 1分通話及び小ゾーン(200mW)での通話をモニターしている場合には、群番号が一致していても通話には参加できません。
3. 待受けている群番号は、ディスプレイに表示している群番号、メモリー1、2、6に記憶している群番号、特定通信用群番号です。
4. リセット時に **割込** 表示を消します。

(2) 相手から呼出される場合

❶	スタンバイ状態を確認し、あらかじめ個人、及びグループで決めた**群番号を、ディスプレイかメモリー1、2、6のいずれかに設定します。** (例えば、ディスプレイに「08940」を設定した場合)		
❷	設定した番号で相手から呼出しがあった場合は、連続受信時間 **5** を2秒間表示した後その群番号を表示し、呼出音で知らせて通話受信状態になります。 (例えば、ディスプレイの群番号で呼出された場合)	ピロロピロロピロロ	
❸	通話を続ける場合には、(1) ❻以降を繰り返します。	(音声信号)	

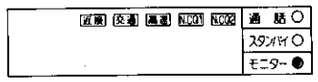
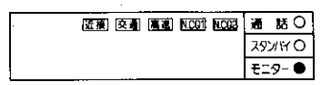
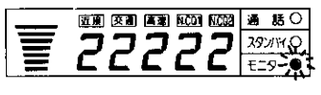
注意

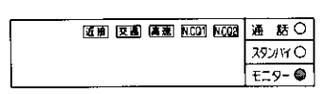
1. 呼出しがあったにもかかわらず、音声が聞こえてこない場合には **ホールド** 表示を確認してください。
点灯している場合には、プレストークボタンを押してこちらから話しかけてください。 — ピッ —
2. ディスプレイに表示されている群番号以外の群番号で呼ばれることがあります。これは、特定通信用群番号での呼出し(11-6)か、メモリー1、2、6に記憶されている群番号での呼出しです。
3. (1)の場合も(2)の場合も、ホールド状態は、3秒間群番号表示、7秒間ダウンカウント表示を繰り返しながら30秒間保持します。
また、10秒毎の群番号表示の際に「ブッ」という予告音で知らせます。
終了3秒前からは秒毎に「ブッ」という予告音で知らせ、終了時には「プー」という終了音を出します。
その後、スタンバイ状態に戻り、ホールド状態になる前の群番号表示をします。
(例えば、ホールド状態前の群番号が「08940」だった場合)

〈3秒間〉	
〈3秒後〉	
ブッ 〈10秒後〉 〈3秒間〉	
ブッ 〈27秒後〉	
プー 〈30秒後〉	

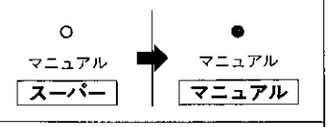
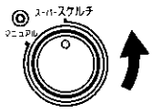
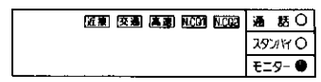
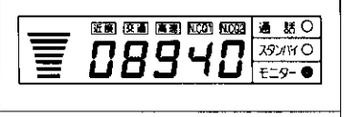
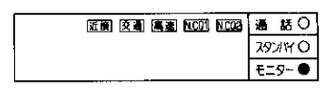
6. モニター

群番号を知らない他局同士の通話をモニター（受信）することができます。モニターには、オートとマニュアルがあります。ROMカートリッジを装着しなくてもモニターはできます。

	(1) オートモニター		
❶	スタンバイ状態を確認し、**スーパースケルチにします。** モニター／ホールド キーかマイクの MONITOR・S ボタンを押します。 サーチ中は群番号が消えます。 （例えば、「08940」が設定してあった場合）	ピッ	
❷	通話しているチャンネルを見つけると、モニターサーチを停止して、再び群番号を表示します。 レベルインジケータは、入力信号に応じて振れます。	（音声信号）	
❸	更に違う通話をモニターする場合には、再び モニター／ホールド キーか MONITOR・S ボタンを押します。	ピッ	
❹	もし、モニターしている通話の群番号と待受けている群番号（注意3）が一致すると、一致音と モニター 表示の点滅で知らせます。点滅は5分間続きます。 （例えば、メモリー2の「22222」と一致した場合）	（音声信号） ピロロ	
❺	モニター 表示点滅中にプレストークボタンを押すと、モニター状態から通話送信状態になり、通話に参加することができます。違う通話をモニターする場合は、❸の操作をします。	ピッ	
❻	モニター状態を終了する場合には、マイクの RESET ボタンを押します。但し、❶、❸の時には、 リセット 消 キーを押してもリセット動作をします。	ピッ	

注意		
1. モニターサーチ中に「ピピピ」という音が鳴る場合がありますが、これは現在のチャンネルモードを1周サーチしたことを知らせるサーチ音です。	ピピピ	
2. 1分通話及び小ゾーン(200mW)での通話をモニターしている場合には、群番号が一致していても通話には参加できません。		
3. 待受けている群番号は、ディスプレイに表示している群番号、メモリー1、2、6に記憶している群番号、特定通信用群番号です。		
4. 1分 表示点灯中は158chモード1分通話チャンネルを、 80ch 表示点灯中は80chモード通話チャンネルをサーチします。		

モニターしたい通話のレベルを設定する場合にはマニュアルモニターにします。

	(2) マニュアル モニター		
❶	スタンバイ状態を確認し、マイクの SQ ボタンを押します。マニュアル 表示が点灯し、マニュアルスケルチであることを示します。	（ピッ）	
❷	スケルチツマミを反時計方向に回し、モニターしたい通話のレベルを設定します。		
❸	モニター／ホールド キーかマイクの MONITOR・S ボタンを押します。 サーチ中は群番号が消えます。 （例えば、「08940」設定してあった場合）	ピッ	
❹	設定したレベル以上の信号を見つけて停止し、そのチャンネルをモニターします。	（音声信号）	
❺	違うチャンネルをモニターする場合には❸以降を繰り返します。 スケルチツマミを反時計方向一杯に回しておくと、通話の有無に寄らず、全チャンネルをモニターできます。	ピッ	
❻	もし、モニターしている通話の群番号と待受けている群番号が一致した場合には、(1) ❹以降の操作をします。 （例えば、ディスプレイの「08940」と一致した場合）	（音声信号） ピロロ	

注意
1. サーチ中の「ピピピ」という音はサーチ音です（10-6（1）注意1参照）。
2. 1分通話及び小ゾーン(200mW)での通話をモニターしている場合には、群番号が一致していても通話には参加できません。
3. 待受けている群番号は、ディスプレイに表示している群番号、メモリー1、2、6に記憶している群番号、特定通信用群番号です。